

「PREMIUMねぎ美人」の取り付けや土寄せの仕組みの説明を受ける参加者ら＝倉吉市志津



ネギレーキの説明を聞く参加者ら＝倉吉市志津



倉吉で県内2企業

土押さえ作業 負担軽減期待

白ネギ栽培 開発、改良農具の実演会

鳥取県内の2企業が開発、改良した白ネギ栽培の最後の土押さえをする農具の実演会が12日、倉吉市志津のほ場で開かれた。県西部では導入されているが中部では浸透しておらず、これまで手作業で行っていただけに作業の負担軽減が期待される。
(吉浦雅子)

県倉吉農業改良普及所が主催した。白ネギは軟らかい白い部分が多いものが商品価値が高い。そのために生産者は4〜5回、土寄せ作業を行っているが、最後の土押さえ作業はきれいな軟臼を作るため手作業でするのが主流になっている。

一つは鳥取市古海の松村精機が開発したローラーが付いたロータリーを管理機に装着して土寄せができる新型培土機「PREMIUM

M(プレミアム)ねぎ美人」。もう一つは倉吉市広栄町の八島農具興業の改良型「ネギレーキ」。どちらも生産者の声を聞いて改良を重ねており、労力軽減に有効であることが県西部の生産者には認知され、導入が進んでいる。

ねぎ美人は手持ちの管理機に装着可能で、土質を選ばず、うね幅や高さ調節が可能。10分当たりの土寄せ作業時間がこれまでの3分の1で済むという。

ネギレーキはヘッド部分にパンチ穴加工して押す力を軽減、柄は伸縮可能で人や場所に合わせて調節できる。倉吉市内では101戸が33畝で白ネギを栽培。実演会には30人以上が参加し、使い方などを熱心に聞いていた。90分で生産している

前田直樹さん(49)はねぎ美人に関心を示し、「後からの手作業が不要というのがいい」と話した。